



資源と環境の教育を考える会『エコが見える学校』
 関東学院大学非常勤講師
 三信化工株式会社

海老原誠治

えびはら せいじ

佐賀大学物理学科卒業、佐賀県立有田窯業高等学校・
 常勤講師を経る。

春夏冬、□□五合

若手と飲む時、おじさん（筆者）からすると、「シゴウビン」といって通じないとき、「ヨンゴウビン」と言い直して、それでも通じないときは、自身に漂う哀愁を説明するのもヤボだし空しいので、なかったことにします。知られていないこと自体、社会から必要とされていない証拠で、ノスタルジーの押しつけは諦めた方が無難です。

あれっ、ちょっと待ってください。「ゴウ」は本当に必要とされていないでしょうか？ゴウの名誉のため、少しあがいてみました。

ゴウ＝合

今さらですが、合は、体積180mlを示す単位で、シゴウビンは四合瓶です。今では米の計量でも1カップとありますが、本来は1合です。3合炊きや4合炊きなどと炊飯器の表示では、現役で活躍しています。180mlで検索すると、瓶の牛乳やジュース、さまざまな物の容量としてまだ、身近に存在していました。

合が活用される裏には、量る道具・杓が

季節のうつろいたべものすごろく



ルール；

季節と行事を巡り、関わる食べ物の札を集める。札の組み合わせで、ボーナスの札ももらえる。勝敗はゴールの早さではなく、札の数が多い方が勝ち。



潜んでいます。本タイトルの「春夏秋冬、 $\square\square$ 五合」は、「商い益々繁盛」と読むしゃれです（「春夏秋冬」=秋がない=商い、 $\square\square$ =枡枡=益々、五合=十合（一升）の半分=半升=繁盛）。

最初、古い食堂の壁で見た言葉ですが、気をつけると、予想以上にさまざまな所で発見できます。十升=一斗、枡が升の意も含むことを利用した「一斗二升五合」「ご商売（五升の倍）益々（枡枡）繁盛（半升）」など、さまざまなパターンがあるようです。家庭では、めっきり見なくなった枡ですが、非常に身近であったことが、しゃれからもうかがえます。

こんなことを考えながら、小学校3・4年生の社会科【古くから残る暮らしに関わる道具】の小道具として、枡を使えないか復権を企てました。

季節をうつろう花札

昔から、花札の絵柄が格好よくきれいで、憧れていました。そんな中、残念ながら今では工房が途絶えてしまいました。松井天狗堂さまによる手刷り花札が手元にあります。兼ねてから季節のうつろいの教材に使えないかと思っていました。学習指導要領・社会科の、生活の変化や【人びとの願い】には、古くからの道具に始まり文化財・年中行事、解説には【節句】という単語も続きます。

古くからなじみある物のコラボレーションとして、花札自体をマスとした、季節のうつろいと行事で食べ物を追うすごろくにしてみました。花札は旧暦（例えば、月見は旧暦8月の札）なので、一部は新暦に直しています。本年の12月には家庭科の授業で試行する機会もいただいたので、また後日ご報告したいと思います。カードからす



▲すごろくで遊ぶ園児（岡山県・第12回食育推進全国大会）

すごろく一式は、『いただきます.info』でダウンロードできますので、授業などにご利用ください。

ところで先日、農林水産省の和食室の方とお話ししていると、すでに大久保洋子先生〔（一社）日本家政学会食文化研究部会長〕がご協力された詳しい『四季を楽しむ和食すごろく』が親子向けに作られていました。HPからもダウンロードできます。
(<http://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/culture/>)

昔からの生きた教材

「春夏秋冬、 $\square\square$ 五合」、やや即物的ですが、これも指導要領という願いの一つです。食とうつわとの関わりが深い縁起物の枡、うつろいが表現された花札も、思いを伝える生きた教材です。こんな屁理屈を言いながら、無邪気にすごろくを楽しめたら良いなと思います。

※授業に使える食育資料、情報発信！
『いただきます.info』 <http://itadakimasu.info>



▲すごろくの一式；すごろくのシート・札・札を納める袋、全てダウンロード可能